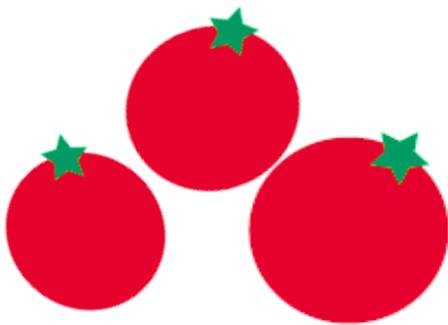




大玉トマト栽培資料  
長期越冬・促成作型  
土耕栽培

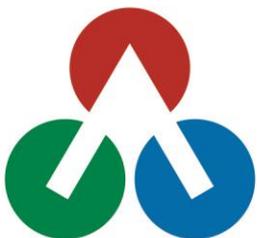


種苗部

Tel. (0274)52-2738

Fax. (0274)52-4534

E-mail. [seeds@asahi-kg.co.jp](mailto:seeds@asahi-kg.co.jp)



朝日アグリア株式会社

# 長期越冬・促成栽培歴

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
長期越冬	■						○	×			■			○: 播種 ×: 定植 ■: 収穫
促成		■						○	×					
									○	×	×			

長期越冬・促成栽培・・・年間を通じて栽培する。様々な環境下にさらされる。

越冬長期作は課題が多い

高温・多湿



長期間



低温・低日照

- ・定植初期の**活着不良**
- ・**葉やけ、果やけ**の発生
- ・**軟果、黄変果**の発生
- ・**厳寒期後の樹疲れ** etc

- ・草勢低下
- ・病気による**減収**
- ・単作による**土壌劣化**

- ・**果実品質**の乱れ
- ・**果実肥大力**の減少
- ・**灰カビ等の病気蔓延** etc

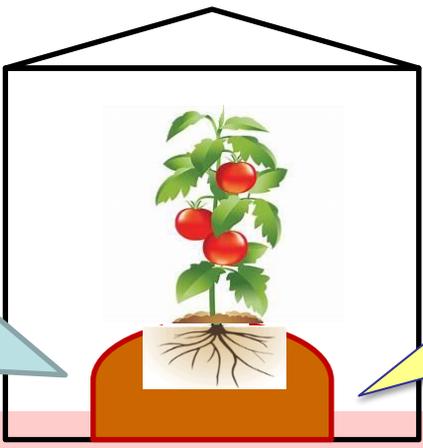
## 近年のトマト栽培

7-9月・・・平均気温の上昇。ハウス内温度40℃超える。  
 ⇒最適温度20-25℃に近づける管理が必要。  
 ※後述 高温対策

9-2月・・・長雨、低日照による障害果・病気が多発する。  
 ⇒土づくり(根張り)を良くし、  
 気候変動に対応することが必要。

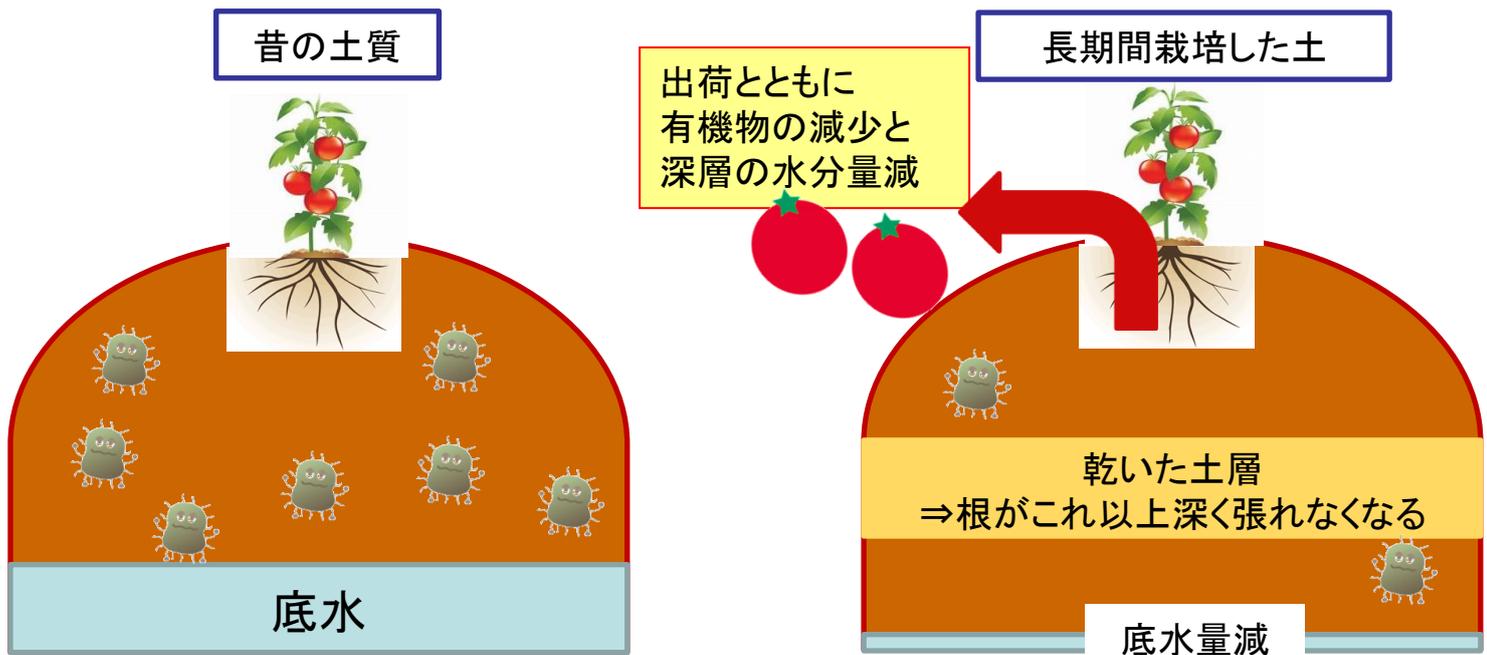
近年発生した事例

8月上旬定植  
 (ハウス内温度32℃以上)  
 ⇒活着不良  
 ⇒根張り不足  
 ⇒花飛び、不着果 etc



長期間トマト栽培を行った土壌  
 ⇒土質の低下(有機物不足、保肥・保水性のない土)

# 土づくりの重要性



- ・**有機物多く、団粒構造をもった土。**  
⇒根張り良く、気候変動に強い根を形成。
- ・底水が十分あり、保水性が高い土。

- ・有機物少なくなり、団粒構造しにくい土。
- ・底水が少なくなり、保水性が悪い。  
⇒砂漠のような土になってしまう。

正しい土づくりをすることで、気候変動に強い根を形成することが重要！

## 土壌消毒

土壌消毒の必要性とは：  
土壌病害やセンチュウ等の軽減、残肥等のバランスを戻すため多量の水とともに消毒することが必要。

**湛水代かき＋太陽熱消毒が最も効果的**

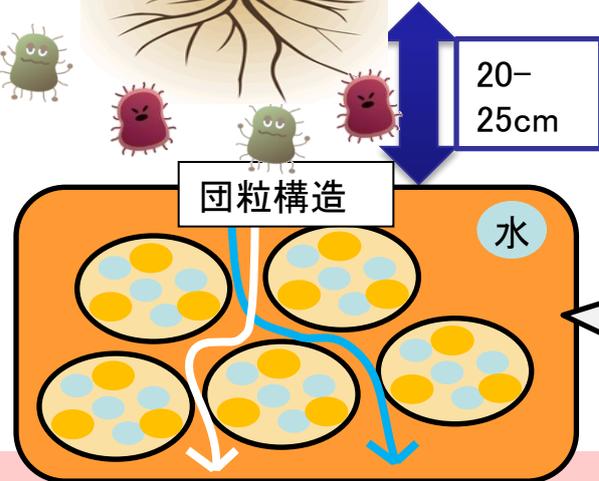
- ・ハウスに水を入れて代かきした後、水を切らさないよう湛水する。  
⇒土壌中の酸素が少なくなり、菌・虫を減少させる。  
※底水が少ない畑は特に有効。
- ・湛水前にフスマや米ぬか等の糖質をもった有機物を1t/10a施用することで効果も向上する。
- ・湛水し透明ポリを全面マルチ。3-4週間ほどハウスを密閉する。

湛水できない場合は消毒薬剤等を混和・マルチがけし、太陽熱消毒を行う。

# 土づくり



- ・地下20-25cmの根が最も活発に働く。
- ・地上部と同じ長さの根が伸びる。  
⇒その部分の良い土づくりが重要となる。
- ・保水力と通気性の優れた団粒構造が トマトの生育にはピッタリ!
- ・団粒構造を作る際に有機質が必要!  
⇒堆肥などの有機資材を利用する。



↓(矢印白): 空気の流れ  
↓(矢印青): 水の流れ

団粒構造を作ること通気性・透水性・保水・保肥が良好になる。

## 施肥例(基肥)

### 基肥

堆肥 2-3t/10a  
もしくは  
レオグリーン特号(濃縮堆肥)200-300kg/10a

- ①有機アグレット6-6-6 N:5-20kg/10a
- ②有機アグレット8-2-5eco N:5-20kg/10a
- ③エコレット8-6-6 N:5-20kg/10a

土壌診断にあわせて下記を適宜施用する。

- ・草木加里(KはNの1.5倍量を目安)
- ・フミカルアップ(腐植酸入りCa資材)などの土壌改良材

堆肥の注意点  
飼料にクロピラリド  
(除草剤成分)が  
入った堆肥に注意。

即効性のある化学肥料よりも、  
長く効く有機主体の肥料の方が  
生理障害が出にくいので  
オススメ

# 高温時の栽培管理～温度抜き～

トマトの最適温度26-28℃ 最低:8℃ 最高:32℃  
※範囲外温度はただ生きているだけとなる。

理想はこの温度帯だが、近年は温暖化により昼夜高温となる。

## どうすれば良いか

- ・**涼しい場所の管理**を目指す。
  - ⇒①育苗管理は地面から高い場所で行う。
  - ⇒②風通りが良い環境作り(循環扇・扇風機の導入)。
  - ⇒③遮光ネット等(遮光率30-40%はかけっぱなし。50-60%は日射が強い時間帯のみ)を利用する。
- ・水冷**循環扇等を導入して温度を可能な限り下げると空気の対流を促す。**
- ・高夜温管理(夜温25℃以上)、長雨下の低日照は徒長を促してしまう。
  - ⇒育苗中、定植初期から**リンカリ系の葉面散布**で生殖成長を促す。

## 高温対策 通年被覆ハウス向け

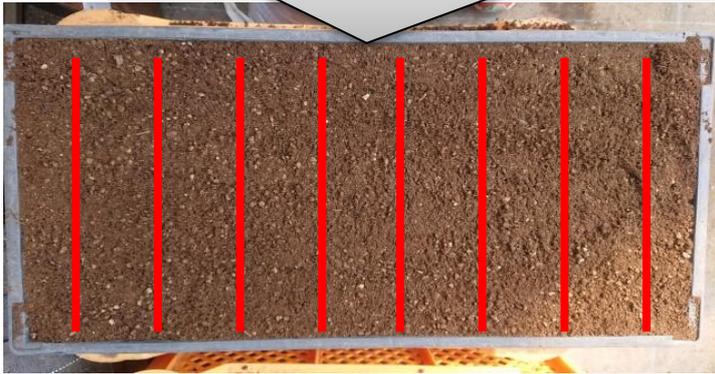
ビニールを外さない場合は高温になるので、注意が必要。  
トマトが正常に生育する限界温度は**32℃**です。

### 4つの高温対策

- ①暑い時期(8月上旬)に定植するのは控える。  
異常高温下では**活着不良から不着果**となり、その後の生育にも影響するため。
- ②循環扇を利用し、ハウス内空気の対流を促す。
- ③(労力に余力があれば)  
夕方5:00以降に**通路に水をうって**温度を下げる、  
10:00～15:00の間**遮光資材**を使用することで温度を低下させる
- ④ハウス谷部が2m以下だと熱がこもるため、ハウス空間を保つか、風通りを良くする。

# 播種

床土には浸透性の高い土がオススメ。(ピートモス等)



穂木 スジまき

- ・スジ間は5-7cm 粒間は1-2cm
- ・深さは5-10mm
- ・播種後に転圧し土と種子を接着させる。
- ・転圧後灌水(薬剤灌注し病害予防)。
- ・灌水後、新聞紙をかけて2日完全湿潤。
- ・発芽まで地温30℃前後管理。



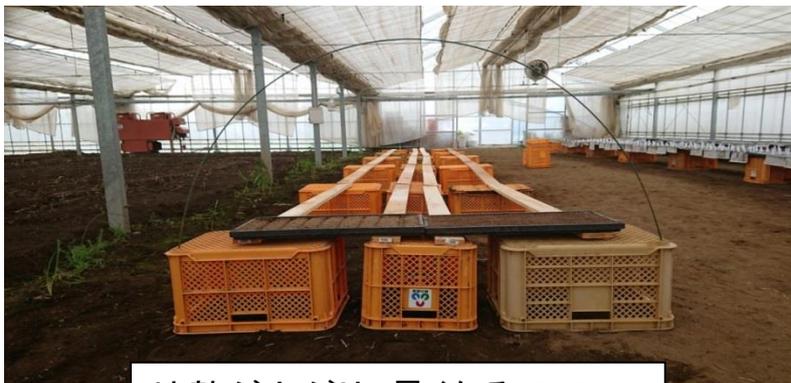
72穴 台木を播種

接木タイミングを合わせるため、  
台木は穂木より1日早く播種する。

128穴や200穴でも可能だが、床土が多い72穴は接木までに軸を太く、灌水ムラも少ないため接木しやすい。

# 発芽

- ・播種2日後で早い品種は発芽する(1日半で新聞紙を取り除く)。
- ・暑くなるので涼しい場所で育苗管理をする。
- ・コンテナ等使って地面から浮かせ、涼しい環境で育苗する。
- ・水冷扇風機を導入して温度を可能な限り下げると空気の転流を促す。
- ・必要であれば写真左のような遮光資材も導入する。
- ・徒長を防ぐために夜もなるべく涼しい(18-20℃)管理を目指す。



地熱が上がり、暑くなるので  
地面から離す。



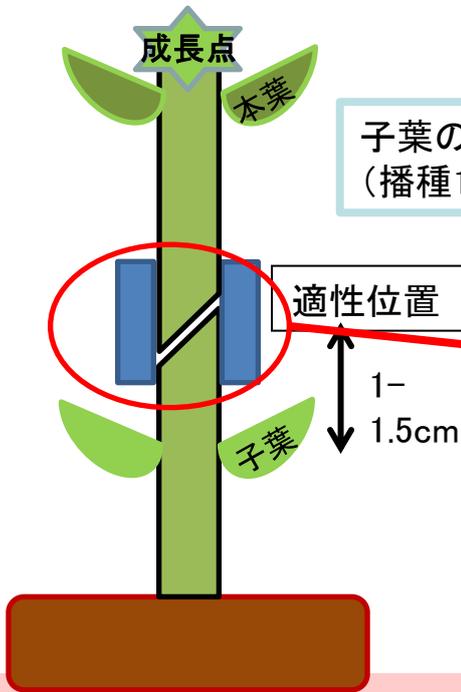
播種10日後

過水・高温により徒長した状態の幼苗  
夕方に土が乾く灌水管理を目指す。

# 接木方法

播種17-20日後に接ぎ木するのがベスト。

- ・台木の子葉から1.0-1.5cm上の位置で斜めに切断する。
- ・穂木は成長点から2-3cm下の位置で切断する。(穂木の子葉は落とす。)



子葉の上が2-3cm伸びたタイミング  
(播種17-20日後)で接木する。



## 接木注意点

- ①台木と穂木の**胚軸の太さが合っている**と接木しやすい。
- ②**切断面はキッチリ合わせ**、接木資材を利用して密着させること。
- ③切断面が大きい程成功しやすいので、**縦30°に切断**する。
- ④切断には鋭利なカッター、剃刀等が有効。

# 接木の注意点

播種26日以降の接木は成功率が低下する。



台木の成長点から離れすぎた位置で接ぐと分裂組織から遠いためか、成功率がかなり下がる。

**播種17-20日後に接ぎ木**するのがベスト

**成長点から2-3cm以内**で接がないと成功率が下がる。そのため、播種26日後接木は背丈の伸びた苗になる。



台木の子葉上1cm上が、成長点から離れすぎていた。(播種26日後)  
接合部が黒く褐変しており、成功率が低下

# 接木後の管理



- ・遮光資材を利用し、接木当日と翌日は完全密閉。
- ・過湿機を利用すると成功率向上。
- ・接木2日後以降は順化と萎れ具合によっては密閉する。

※天気の良いし悪い、植物の萎れ具合で調整

1)接木当日、翌日

- ・遮光資材による遮光100%
- ・湿度90%以上維持
- ・温度28℃

2)2日後

- ・夕方1-2時間ほど遮光資材すかし。湿度70-80%で順化させる。
- ・天気が悪ければ朝も順化を行う。
- ・昼は完全遮光湿度90%
- ・温度28℃

3)3日後

- ・朝夕のすかしで順化。湿度60-70%
- ・夜の遮光資材外しorすかしも検討する。

4)4日後

- ・日差しが強い時間だけ遮光する。
- ・萎れなくなったら、遮光資材を外す。

# 鉢上げ～育苗管理

- ・接木1週間後に4寸ポットに鉢上げ。
- ・苗管理は風が抜けて涼しい環境下で行う。
- ・殺虫剤等の粒剤を入れて虫対策を行う。
- ・灌水は夕方土表面が乾くぐらいの程度を目安に行う。  
(鉢上げ前にたっぷり灌水していれば3-4日は必要ない)
- ・昼夜温格差をつけて花芽形成を促す(夜間は側窓開けたままで良い)。
- ・微量要素欠乏を防ぐため、本葉5-6枚展開までに2回の葉面散布を行う。
- ・定植数日前の灌水はやや絞る。



本葉4-5枚展開し、葉が重なってきたら葉が重なり合わないよう鉢広げを行う。



成長点付近の直径5-7cmの葉色が薄い場合  
追肥 N:200-300mg/1株

# 育苗管理 ポイント

灌水管理: 本葉2-3枚展開時は1回に2-3日分の灌水しても徒長しにくいので大丈夫。

本葉5枚展開後から1回の灌水量を徐々に減らし、朝灌水したものが夕方乾くぐらいを目安にする。

温度管理: 本葉8-9枚で花芽形成を目指すため、高温を避け昼温23-25°Cを保つのが理想。夜は側窓を開けたまま、低め18-20°Cの管理を目指す。

ポイント:

- ①鉢上げ後リンカリ系の葉面散布をまくことで生殖成長に寄せる。(日照不足から栄養成長に偏りやすいため。)
- ②葉長が20cm以上長くなる場合、葉長を半分にする。(草勢過多の防止。)
- ③苗を萎れさせない。(生理障害果を防ぐ。)

## 定植



定植時期の根回り

・根が床土を回りきったら定植時期。

・床土最下部に根がまくようでは遅い。

・この根回りで本葉が7-8枚。花芽ががく割れ~1花咲きまで成長している苗が定植苗の理想。

・定植前の畝には十分な水分を与えておき、定植当日には苗に十分な水分を与える。

### 定植方法



畝

・畝から5-10mm浮かせて定植する

⇒株元灌水時、ポットに水が入り過ぎるのを防ぎ、活着促進に繋がる。

・定植直後は活着促進のため根鉢とその周りが湿るように灌水する。

# 定植時の苗



定植5日後の苗

- ・定植10日後までに1段目を着果させる。  
⇒樹ボケ(草勢過多)を防ぎ、2-5段目の果実品質低下を防ぐ。
- ・ホルモン処理は3-4花開花時に行う。  
暑い時間帯は濃度障害が起こるので、朝か夕方に行う。  
(⇒後述 ホルモン処理にて詳細を記載)

# 定植後の栽培管理

## 灌水管理:

活着までは200-300mlの少量灌水を午後の高温で萎れなくなるまで2-4回行う。必要であれば遮光カーテンも利用し萎れを防ぐ。

## 温度管理:

活着後は昼温25-26°C、夜温は18-20°Cを目指し、可能な限り昼夜温格差をつけ生殖成長にもっていくことを目指す。

## ポイント:

生殖成長を意識する。リンカリ系の葉面散布や摘葉なども有効。

# ホルモン処理

- ・定植10日後までに1段目を着果させる。
- ・濃度障害を防ぐため、暑い時間帯は避ける。やむを得ない場合はハウス内温度により倍希釈倍率を薄めて処理する。
- ・2-3花開花、4花目蕾ぐらいの花房の正面から全体に1吹きかける。
- ・1果房にホルモン処理は1回まで。2度がけは空洞果を助長する。



ホルモン処理の適期

## 9月の栽培管理 2-3段目開花期



初期活着際の  
良い根張りの様子

理想の温度管理:

樹ボケ(茎径15mm以上)しないように昼温25-28℃、夜温18-20℃と1日の平均温度は高めに維持する。

⇒夜地温が確保され根が充実する。

灌水管理:

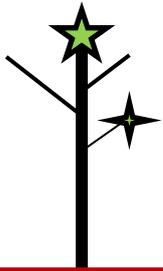
この時期が一番草勢が強くなる。樹が暴れるので灌水は萎れない限り行わない。

ポイント:

- ①根がマルチの肩まで伸びたらより深く張らせるため、マルチを肩まで上げる。1-2週間ほどで畝深部へと根を伸長させる。
- ②草勢が弱い場合は追肥を検討する。

# 草勢の判断基準（弱い場合）

正常な状態



草勢が弱い場合  
（朝方の状態）



花の開花も花弁が長く、弱い花。

- ・成長点より上に本葉が立つ。
- ・小葉が小さく上に立っている。
- ・朝方の成長点付近の葉色が淡い。
- ・成長点15cm下の茎径が7mm以下。

対策

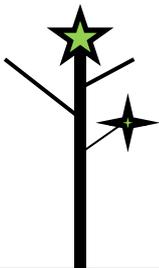
・初めは灌水し、草勢が強くない場合は追肥を行う。11月までに草勢をつけていく管理を目指す。



夕方の写真 3段開花期  
芯芽が細く追肥が必要

# 草勢の判断基準（強い場合）

正常な状態



草勢が強い場合



- ・過度な本葉の巻き込みがない。
- ・成長点15cm下の茎径が8-12mm。

- ・成長点付近の葉の巻き込みが大きい。  
⇒朝方でも夕方同様に巻き込んだままの状態が続く。
- ・成長点付近が過繁茂。
- ・成長点15cm下の茎径が15mm以上。

対策

- ①1日の平均気温を上げて縦に伸ばす。
- ②リンカリ系の葉面散布を行う。



夕方の写真 3段開花期  
葉の巻き込みが強く、成長点付近が過繁茂

# 施肥例(追肥方法)

成長点より本葉  
が上に立つ



草勢が弱く追肥が必要  
な状態

## 追肥の判断

追肥タイミングは大きく3種類

1) 1段目果実がピンポン玉大(3段開花)以降、7-10日おきに1回。

おすすめ肥料(液肥): はつらつ君(有機液肥)6-6-6

寒冷期 N:0.5-2.0kg/月

温暖期 N:1.0-3.0kg/月

(粒状肥料)有機アグレット6-6-6 2-3kg/10aを肩肥え。

400-800倍希釈し施用。チューブ内のカビを防ぐために、施肥後に空水をうつ。

2) 成長点付近の葉が立つ場合。

3) 葉色が朝からずっと薄いままの場合。

・急激な量の追肥は根の肥料やけを起こす恐れがあるので、段階的に行う。

例) N:0.2-0.3kg/10a⇒0.5kg/10a

## 10月の栽培管理 4-6段目開花期

理想の温度管理:

昼温25-28°C、夜温12-14°Cと1日の平均温度は高めにかつ昼夜温度差もつけ、果実・根への転流を促す。

ボイラーの準備を行う。

灌水管理:

4-5段目開花(第1花房ピンポン玉大)で灌水を開始していく。耕盤が浅い場合、すぐに反応するため100-200ml/株と少量ずつ行う。

ポイント:

長雨による低日照を受け軟弱苗(花粉品質低下、着果不良)になりやすいので、9月の管理で初期根張りを充実させておく。

軟弱苗になった場合はリンカリ系の葉面散布を行い昼温23-25°Cにやや下げる。

# 11月以降厳寒期の栽培管理

温度管理:

樹ボケ(茎径15mm以上)しないように昼温23-26°C、夜温10-12°Cと1日の平均温度は高めにかつ昼夜温度差もあるように設定する。

早朝加温の開始⇒日の出前4時頃から徐々に上げ日の出頃15°Cまで加温し果実結露を防ぐ。

果実結露が出るときは夕方換気窓・カーテンが閉まる時間を遅く(換気窓は日没前、カーテンは外気温7°C)する。

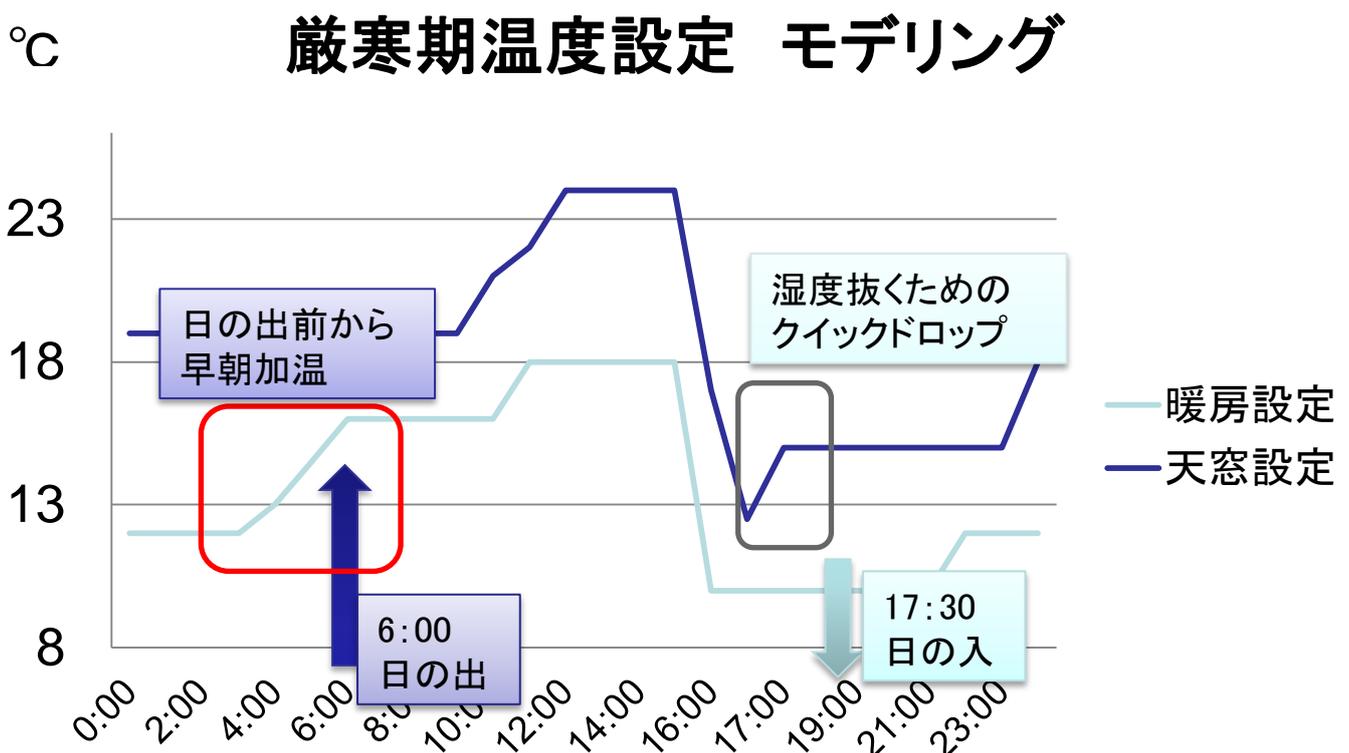
灌水管理:

地温15°C以上、水温8°C以上確保できる場合、灌水も8-12日おきに1回、200-400ml/1株ほど行う。

ポイント:

果実結露は①玉肥大を鈍らせる②病気を誘発するので、クイックドロップ等(後述)を利用し湿度を抜く管理を心掛ける。

## 厳寒期の温度管理 実践編



# 厳寒期の栽培管理 低温の場合



白いスジが見えた葉  
硬化している。  
乾燥、低湿度で見られる。



最低12°C確保できた  
ときの草姿。

温度管理：  
最低温度12°C以上確保。

12°C以下の場合、  
葉色は濃く、葉は厚くなり  
光合成能力も落ちる。

草勢は成長点下15cmの**莖**  
**径8-12mm**を目指す。  
ボールペン: 10mm

## 低温低日照時に起こる現象

- ・**栄養成長**に傾きやすくなる。  
⇒不着果、異常芽花の形成、花飛び、小果が起きやすくなる。
- ・**葉色濃く、莖径が太く、根は張りにくくなる。**  
⇒初期の活着不良や玉肥大が鈍ったり、空洞果や乱形果の発生に繋がる。

### 対策

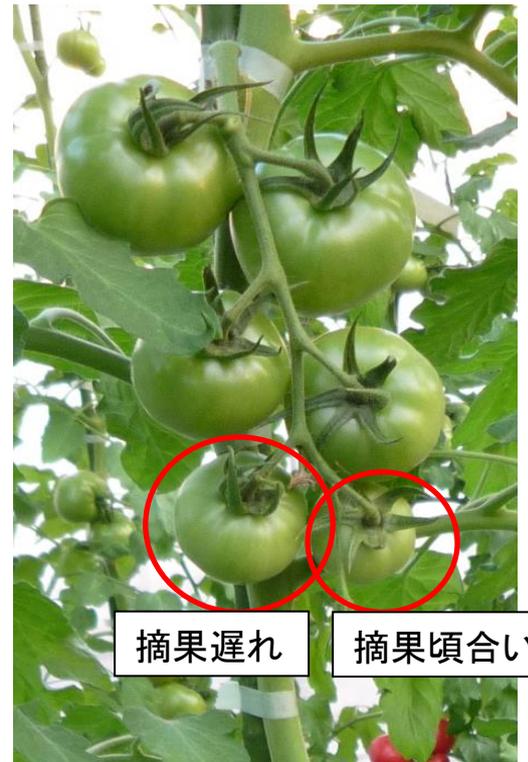
- ・**昼温の確保**。目安23-26°C。  
昼夜温の格差をつけて生殖生長を促す。
- ・リンカリ系の葉面散布  
早めの葉面散布をすることである程度  
防ぐ事ができる。
- ・強摘葉  
**樹勢確保できていれば**長い葉を半分に  
切る、もしくは玉だしが効果的。

### 対応が遅れた場合

- ・異常芽花、花飛び不着が出た場合・・・  
労力があれば**摘葉/球出し**で樹が**暴れ**  
**すぎないように**努める。**ホルモン処理を**  
**利用して強制着果**を狙う。  
労力がなければリンカリ系の葉面散布  
を行う。
- ・初期の活着不良が起きた場合・・・  
午後の気温をやや下げて、**気温<地温**  
となるようにし、根に養分を転流させる。

# 摘果・摘花による収量・秀品率の向上

- ・基本的に3-4果になるよう摘果する。  
着果良い品種は3果着果したら1花残して摘花。
- ・鬼玉、かすみ玉などの生理障害果を優先的に摘果する。
- ・茎径が細い、長期的に悪天候が予想される場合は1段目3果に摘果する。
- ・活着後、草勢が暴れたときは逆に着果負担をかけたい。4-5段目開花の少し落ち着いたタイミングで摘果する。



## 厳寒期に玉肥大させるには

### 玉肥大に関わる要因は大きく3つ！

- A. 光合成量を増やす。
- B. 光合成産物を玉に転流させる。
- C. 水の吸い上げを適正に保つ。

A

- ・日照量の増加。  
⇒ 白マルチによる反射光を利用。  
⇒ 資材の汚れの除去。
- ・栽植密度を減らす。1.8-2.0本/㎡まで。  
⇒ 1株あたりの葉枚数が増え、光合成量が増加する。

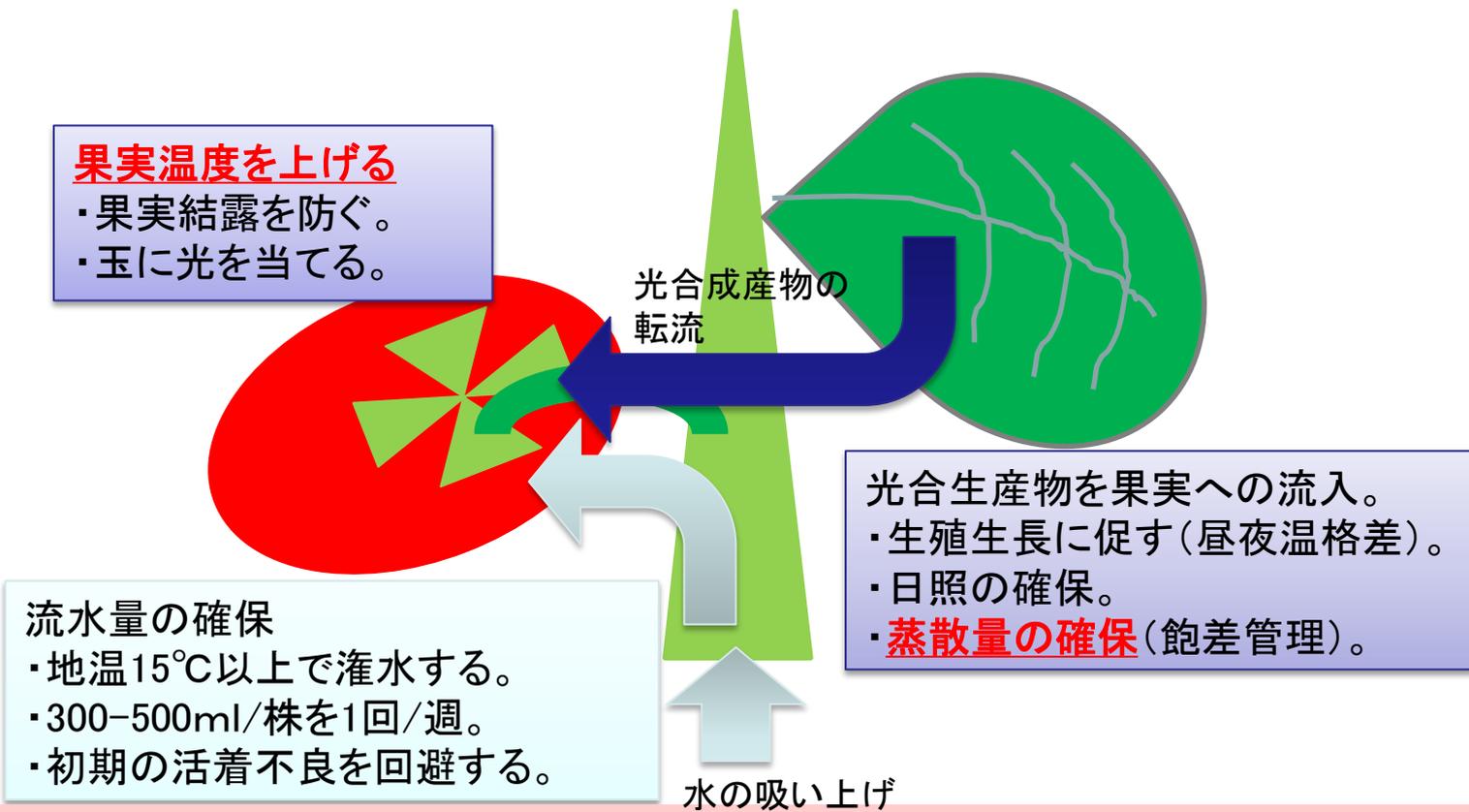
C

- ・適正な水分管理、蒸散しやすい湿度(飽差)の環境作りと根の充実。

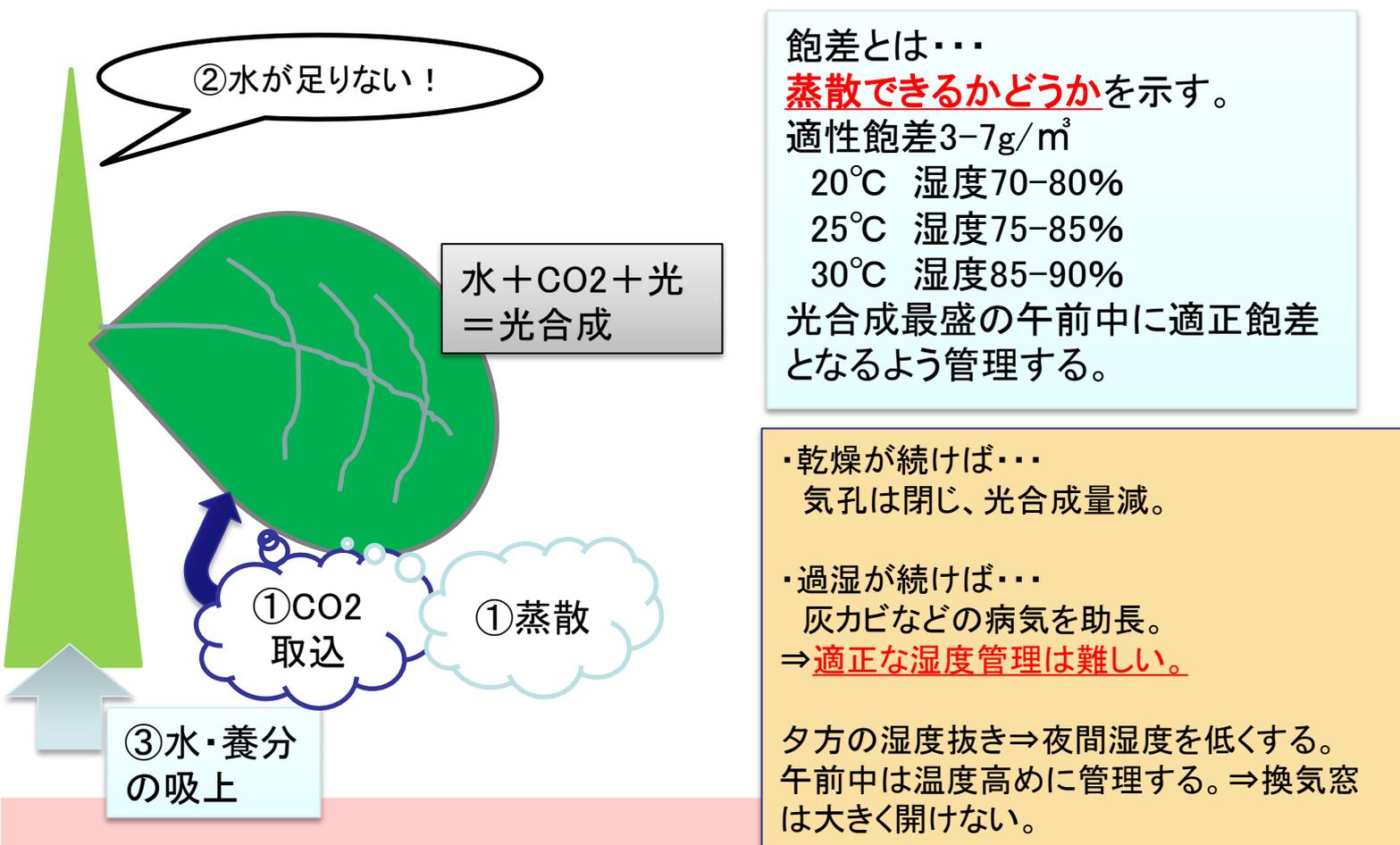
B

- ・球出して果実に光を当てる。果実結露を防いで果実温度を上昇させる。  
⇒ 暖かい部分に養分は転流する。
- ・昼夜温格差をつけ生殖成長に促す。  
⇒ 果実温 > 葉温となり、果実に転流しやすくなる。
- ・摘果し、1果あたりの転流量を上げる。

# 厳寒期に玉肥大させるには



## 厳寒期の玉肥大管理 飽差編



# 2月の栽培管理



脇芽の葉を1枚残して摘心。  
葉枚数を増加⇒光合成量も増加

・日照が長く、着果負担もあるので生殖成長に傾きやすくなる。

**追肥管理を意識する。**

⇒早いうち(12-1月)から追肥で追った効果が表れる。

・灌水量、追肥量を徐々に増やす。

灌水チューブ5-10分灌水を2-3回/10日

点滴チューブ15分×2-3回灌水を晴れが続く日に行う。

N:0.5-1.0kg/10a

・日照量が増えていくので、増枝もしくは脇芽の葉を残して葉枚数を増やしていく。

# 3月中旬以降 温暖期の管理

・急激な温度上昇による萎れに気を付ける。

⇒2月中下旬から灌水量・頻度を徐々に増やしていく。

灌水開始300-500ml/株⇒4月 1.0-1.5L/株

1週間に2~3回(灌水チューブ)

晴天日は毎日(点滴チューブ)

※地温15℃以上、水温18℃以上確保できていること。

・草勢維持のため、午後は**やや低め20℃前後**を目安に管理。  
午後温度を低めに管理することで、光合成産物を根に転流させる。

根を再充実させることで草勢維持と萎れ防止に繋げる。

・**7-10日に1回追肥**で追っていく管理。

N:0.5-1.0kg/10a Kはチッ素の1.5-2倍量必要。

# 裂果対策

## 裂果の主な原因は？

弾力性のない果実内に水/光合成産物が流れ込む。

強い日差し⇒果皮を硬化させる(ヒトでいう日焼け)。

対策: 遮光資材・葉による光線量を減少させる。

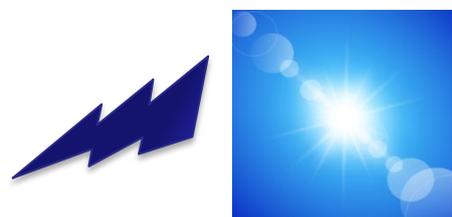
昼夜温格差⇒光合成産物量が多く、流入量が多い。

対策: 早朝時の灌水を抑える(蒸散始まってから灌水)。

少量多灌水を中心掛ける。



多い流入量



紫外線による硬化

## 生理障害果 空洞果

### 原因

厳寒期に起こりやすい。主な要因として

- ・光合成産物の転流不足。
- ・過剰な草勢。
- ・ホルモン濃度が濃すぎる。
- ・極端な低温管理。

### 対策

- ・光合成量を増加させる。  
⇒日照確保のため球出し、CO2施用
- ・転流先を制限する。  
⇒厳寒期は3果に摘果する。
- ・夜温12℃以上確保する。
- ・昼夜温格差、生殖成長に促して良質な花粉形成を促す。



# 生理障害果 鬼玉・乱形果



## 原因

- 各果房の第1花で起こりやすい。  
主な要因として
- ・低温、施肥量が多い。
  - ・若苗定植等からの過剰な草勢。

## 対策

- ・定植後からの樹が暴れないように、水分過剰に気を付ける。
- ・肥料の多用、特に化学肥料の場合は、急激に肥料が効きすぎるため、少量多施肥を心掛ける。

# 生理障害果 着色不良果



## 原因

- 厳寒期・温暖期、作を通じて起こる。  
主な要因として
- ・チッ素過多
  - ・カリウム吸収不足
  - ・高温時の果やけ(肩まわりの黄変果)

## 対策

- ・肥料を多用しない。
- ・根張りをよくし、養水分の吸収性をよくする。
- ・MgはKと拮抗するので多用しない。
- ・厳寒期はリンカリ系の葉面散布を行う。
- ・果実温が32℃以上にならないよう、葉や遮光資材で日陰を作る。



# 生理障害果 尻ぐされ果



## 原因

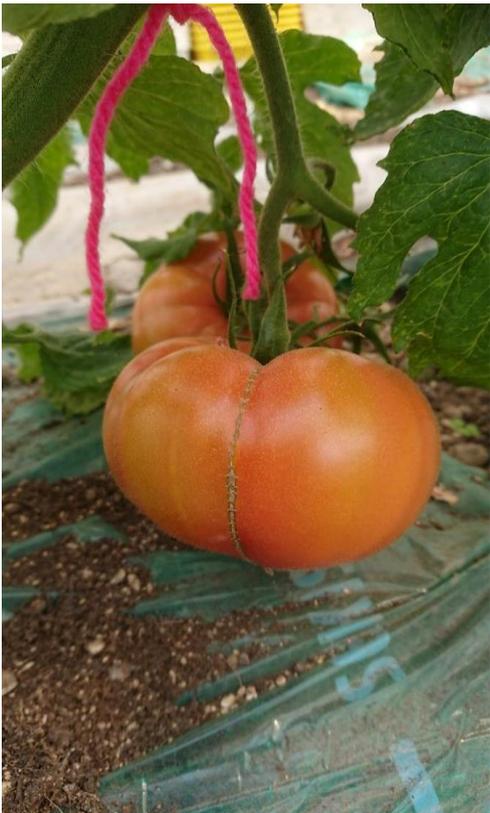
厳寒期・温暖期、作を通じて起こる。  
主な要因として

- ・水分不足
- ・カルシウムの吸収不足

## 対策

- ・灌水不足、灌水が遅れないようにする。
- ・厳寒期はCaの葉面散布を行う。
- ・定植後に萎れ、活着不良が起きないようにする。

# 生理障害果 チャック果



## 原因

厳寒期に起こりやすい。主な要因として

- ・長期間12℃以下の低温にあたる
- ・ハウス内の多湿

上記の場合に雄しべが果実から離れず肥大することで起こる。

## 対策

- ・夕方の換気で多湿を防ぐ。
- ・圃場の排水性を良くする。
- ・ボイラーを使って12℃以上の確保。湿度抜きとして送風等を利用する。

# アニモTY-12

## 黄化葉巻病耐病性品種

- ・花数多く、**着果率が安定し**優れる。
- ・葉先枯れやスジ腐れ少なく、**温暖期に強い**。
- ・**極硬玉**で軟果出づらく、棚もちが良い。
- ・肥料に鈍感で大規模栽培で管理しやすい。
- ・熊本で**100ha以上の導入**実績。



着果良く  
摘果推奨品種

長期越冬・促成作型に適します。  
抑制作型でも評価が高いです。

トマト黄化葉巻病、葉かび病(Cf-9)、萎ちょう病レース1、2 根腐萎ちょう病、半身萎ちょう病、斑点病、ネコブセンチュウ、トマトモザイクウイルス病(Tm-2a型)耐病虫性。

# 有彩014

## 黄化葉巻病耐病性品種

- ・着果率と肥大性に優れ、**安定した収量**が望める。
- ・空洞、乱形、スジ腐れ果少なく、**高い秀品率**を誇る。
- ・小葉で管理しやすく、葉先枯れも出にくい。
- ・**硬玉**で軟果出づらく、棚もちが良い。
- ・酸味がありバランスのとれた食味。



着果良く  
摘果推奨品種

長期越冬・促成・夏秋作型に最適です。

トマト黄化葉巻病、葉かび病(Cf-9)、萎ちょう病レース1、2 根腐萎ちょう病、半身萎ちょう病、ネコブセンチュウ、トマトモザイクウイルス病(Tm-2a型)耐病虫性。  
**※斑点病の耐病性が不十分ですので予防に努めてください。**

# アルル

## 黄化葉巻病耐病性品種

- ・異常茎が極めて少なく、均一した栽培が可能。
- ・TY品種の中でも最高クラスの食味を誇る。
- ・甘味強く、濃厚な味を追求。
- ・スジの発生少なく、追って高収量を目指せる。
- ・ヘタ落ちも少なく高い可販果率。

長期越冬・促成作型に適します。



高糖度・契約販売・直売所出しに最適

トマト黄化葉巻病、葉かび病(Cf-9)、ネコブセンチュウ、トマトモザイクウイルス病(Tm-2a型)耐病虫性。

萎凋病、根腐れ萎凋病、半身萎凋病発生圃場では台木の使用を推奨

# リトルジェムダブル

**収量抜群**

- ・異常茎が出辛く、栽培しやすい。
- ・スジ果、ヘタ落ち、裂果少なく、高い秀品率を誇る。
- ・果房長く花数あるため高収量タイプ。
- ・1果重15-20gと肥大良く、玉揃いが良い。
- ・3段目以降から複果房を形成しやすい。



肥大良く  
高収量タイプ

夏秋・抑制・促成・長期越冬作型に適します。

葉かび病(Cf-9)、萎ちよう病レース1・2、半身萎ちよう病、ネコブセンチュウ、トマトモザイクウイルス病(Tm-2a型)耐病虫性。

※斑点病、黄化葉巻病の耐病性はないので、予防に努める。

ミニトマト

# リトルジェムプレミアム (AS-356)

## 黄化葉巻病耐病性品種

- ・異常茎が極めて少なく、均一した栽培が可能
- ・回転率高く、花数多いので高収量が狙える
- ・スジの発生少なく、追って高収量を目指せる
- ・節間がやや長く、採光性に優れる
- ・酸味がありバランスのとれた食味



低日照or弱草勢下ではS玉多くなる

対策: ①厳寒期の理想の栽植密度1.8-2.0本/m<sup>2</sup>  
②先端の花を摘花、摘果

トマト黄化葉巻病、葉かび病(Cf-9)、萎ちよう病レース1、2、半身萎ちよう病、ネコブセンチュウ、トマトモザイクウイルス病(Tm-2a型)耐病虫性。

根腐萎凋病発生圃場では台木の使用を推奨

トマト台木

# 台好き

## 複合耐病性品種

- ・青枯れ病、トマトモザイクウイルス(Tm-2a)、半身萎凋病レース1、萎凋病レース1・2・3、褐色根腐病、根腐萎凋病、ネコブセンチュウに耐病虫性を持つ。
- ・草勢は中程度、主根と側根がバランス良い。
- ・細根が多いので生理障害が出にくい。
- ・開花や着果が早く、収量性が向上する。
- ・糖度が上がり、穂木の食味を向上させる。

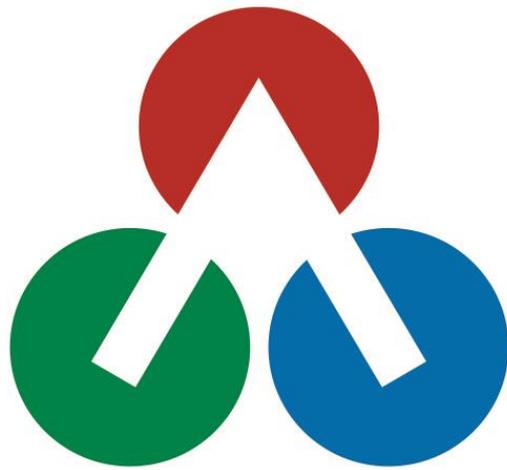


青枯れ病に強い  
実績あり

夏秋・抑制・促成・長期越冬作型に適します。



根の張り方。主根+側根+細根



**朝日アグリア**

種苗部

Tel. (0274)52-2738

Fax. (0274)52-4534

E-mail. [seeds@asahi-kg.co.jp](mailto:seeds@asahi-kg.co.jp)